

富里市教育委員会点検及び評価

(令和6年3月末時点)

<目 次>

1. 教育委員会の点検及び評価について	1
2. 令和5年度富里市教育委員の活動状況	2
3. 令和5年度とみさと教育プランに基づく令和5年度事業目標と評価	
概 要	3
(1) 確かな学力を育む	4
(2) 健全な心と体を育む	14
(3) 地域に開かれた学校づくり	25
(4) 生涯学習の推進	28
(5) 文化・芸術の振興	33
(6) スポーツの振興	37
(7) 青少年の健全育成の推進	42
(6) 平和・人権意識の向上	44
4. 講 評	45

1. 教育委員会の点検及び評価について

【目 的】

教育委員会は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な教育行政事務を執行するものです。

このため、事前に教育委員会が立てた基本方針にそって具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要性が高いものと考えられます。また、教育委員会が地域住民に対する説明責任を果たし、その活動を充実することが求められています。

このようなことから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、平成20年4月から、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。

【富里市教育委員会の点検及び評価について】

富里市においては、教育行政の基本的目標として策定している「とみさと教育プラン」を基準として、点検・評価を実施します。

この点検・評価については、毎年度末時点で点検及び評価を実施し、その次の年度の9月議会へ提出するとともに、ホームページへ掲載するなど公表します。

なお、実施方法等については、随時見直しを行っていく予定としております。

2. 令和5年度富里市教育委員会委員の活動状況

(1) 会議関係

【定例会議】

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
内容	専決	0	2	0	1	0	1	1	2	0	1	1	0	9
	議案	2	3	5	1	2	0	3	0	1	2	1	5	25
	協議	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	2	0	10
	報告	1	2	5	1	3	6	5	2	5	3	1	8	42

(2) その他の主な活動

- 市内小中学校入学式・卒業式
- 市内小中学校学校訪問
- 市内小学校運動会・中学校体育祭
- 印旛地区教育委員会連絡協議会定期総会(4月17日)
- 印旛郡市民体育大会巡回応援(7月15日)
- とみさとスポーツ健康フェスタ(10月9日)
- 令和5年度富里市中学生議会(10月18日)
- 印旛地区教育委員会連絡協議会研修視察(11月16日)
- 富里市学校教育研究会公開研究会(11月28日)
- 令和6年二十歳を祝う会(1月7日)
- 千葉県市町村教育委員会連絡協議会研修会(1月26日)

3. 令和5年度とみさと教育プランに基づく事業目標と評価

【概要】

令和5年度とみさと教育プランに基づく令和6年3月末時点の評価について、「順調に達成したもの(達成度の評価:A)」は、全81項目中58項目(71.6%)、「概ね順調に達成したものの課題があるもの(達成度の評価:B)」は、全81項目中20項目(24.7%)、「達成できなかったが一定の成果を得られたもの(達成度の評価:C)」は、全81項目中3項目(3.7%)と、合計で全81項目中78項目(96.3%)の目標が順調に達成した。

重点項目ごとの達成度の評価は次のとおりである。

重点項目	項目数	順調に達成したもの(A)	概ね順調に達成したものの課題があるもの(B)	達成できなかったが一定の成果を得られたもの(C)	達成できずに成果に乏しいもの(D)
全 体	81	58 (71.6%)	20 (24.7%)	3 (3.7%)	0 (—)
確かな学力を育む	21	14 (66.7%)	7 (33.3%)	0 (—)	0 (—)
健全な心と体を育む	21	15 (71.4%)	6 (28.6%)	0 (—)	0 (—)
地域に開かれた学校づくり	6	4 (66.7%)	2 (33.3%)	0 (—)	0 (—)
生涯学習の推進	10	5 (50.0%)	2 (20.0%)	3 (30.0%)	0 (—)
文化・芸術の振興	9	8 (88.9%)	1 (11.1%)	0 (—)	0 (—)
スポーツの振興	9	8 (88.9%)	1 (11.1%)	0 (—)	0 (—)
青少年の健全育成の推進	4	4 (100%)	0 (—)	0 (—)	0 (—)
平和・人権意識の向上	1	0 (—)	1 (100%)	0 (—)	0 (—)

新型コロナウイルス感染症の位置付けが2類から5類に引き下げられ、様々な活動が再開する中、学校教育や生涯学習活動等の方法を検討し、工夫しながら実施したことにより、多くの項目において基本目標達成のための取組が順調又は概ね順調に進行した。しかしながら、コロナ禍以前のような活動、意欲を取り戻すためには、更なる方法や周知啓発の検討が必要な事業もあった。今後も限りある予算で最大の効果が得られるような検討、工夫がますます求められる。プラン策定時には、目標を達成するための方策について、あらゆる手段を考察した上で、目標達成に向けて、引き続き各課で取り組んでいく。

1	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	①確かな学力を育てる教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	学力向上に向けた取組	開始年度	平成23年度	
事業内容	「とみの国検定」の内容を学力の下支えとなる語彙力、計算能力の向上を目的としたものに変更するとともに、年度末の検定に向けて年間を通した取組を市内小・中学校全校で実施する。 ・視写・暗唱・100マス計算（小学校）・計算テスト（中学校）			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
小学校 合格率 ・視写・暗唱・100マス計算	各テストの合格率80%	視写80% 暗唱83% 100マス計算40%	B	
中学校 合格率 ・視写・計算テスト	各テストの合格率80%	視写63% 計算43%		
(達成度)				
各校に視写、暗唱、100マス計算の問題の配布及び練習を依頼し継続して実施した。 「とみの国検定」1回目の検定結果と最終回の結果を比較すると市内全小・中学校合格率の向上が見られた。 小学校：視写55%→80%・暗唱56%→83%・100マス計算20%→40% 平均24ポイントアップ 中学校：視写50%→63%・計算テスト34%→43% 平均11ポイントアップ				
(課題・改善点)				
算数科の引き算の100マス計算や中学校の計算テストの合格率に課題が見られた。 令和6年度は検定期間を11月からにし、できるだけ多くの練習が可能となるよう、各校での実施方法の工夫について働きかけていく。				

2	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	①確かな学力を育てる教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	研究指定による指導方法の改善	開始年度	平成24年度	
事業内容	研究指定を受けた学校は、当該教育課題に関する研究実践を推進し、常に授業の工夫・改善を中心とした研究の推進及び教職員の研修に尽力する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
小学校千葉県標準学力テストにおける研究教科の平均点の推移	令和4年度と比較してプラスになること	算数科・国語科ともに2学年 令和4年度に比べ平均4点プラス	B	
中学校千葉県標準学力テストにおける研究教科の平均点の推移	令和4年度と比較してプラスになること	数学科、国語科ともに1学年 令和4年度に比べ2点プラス		
(達成度)				
令和5年度は11月28日に富里小学校、浩養小学校、富里北中学校で公開研究会を実施した。 令和6年2月に実施した千葉県標準学力テストでは、指定を受けた学校の研究教科平均点は各小・中学校で伸びが見られたが、全学校での向上とはならなかった。				
(課題・改善点)				
公開実施校については、各研究部が協力をして、スムーズな運営を行うことができた。また、公開実施校については、無理なく輪番制で回せるようにしていくことが決定している。 研究の取り組みを市内小・中学校で共有し、より多くの学年で研究の成果を感じられるようにしていくことが課題である。				

3	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	②教育内容・方法の改善充実		所 管	学校教育課
事業名	教務主任研修の実施		開始年度	令和3年度
事業内容	学力向上のための市全体の取組についての伝達講習を行う。			
指 標		令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価
小学校・とみの国検定 中間・最終合格率		年間の実施報告を確実に行うこと	4 回実施	A
(達成度)				
年間で中間調査2回、検定2回の計4回実施した。全国学力・学習状況調査について、今後の結果分析や対策を行う際の情報交換を行う貴重な場となった。				
(課題・改善点)				
学力向上推進の中核である教務主任に向けて、より具体的な指導方法を伝達できるように努める。				

4	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	③基礎や基本となる学習への取組	所 管	学校教育課	
事業名	「とみの国」検定の実施（視写・音読・計算）	開始年度	平成23年度	
事業内容	学習の下支えとなる基礎、基本の育成を目的とし、小学校2～6年、中学校1、2年で視写、暗唱、100マス計算を実施する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
小学校 合格率 ・視写・暗唱・100マス計算	各テストの合格率80%	視写80% 暗唱83% 100マス計算40%	B	
中学校 合格率 ・視写・計算テスト	各テストの合格率80%	視写63% 計算43%		
(達成度)				
各校に視写、暗唱、100マス計算の問題の配布及び練習を依頼し継続して実施した。 1回目の検定結果と最終回の結果を比較すると市内全小・中学校合格率の向上が見られた。 小学校：視写55%→80%・暗唱56%→83%・100マス計算20%→40% 中学校：視写50%→63%・計算テスト34%→43%				
(課題・改善点)				
令和5年度は、内容を見直した最初の年ということもあり、実施に関する様々な課題を解決しながら各校で実施することができた。 令和6年度は令和5年度の内容を踏まえ、スムーズに実施できるように努める。また、学びの下支えとなる力をつけるために教職員全員で取り組んでいるという共通認識がもてるように研修会等を実施していく。				

5	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	③基礎や基本となる学習への取組	所 管	学校教育課	
事業名	「富里市きょうざん塾」の実施	開始年度	平成23年度	
事業内容	令和版てらこや「富里市きょうざん塾」を夏季休業中に小学校2年生～6年生を対象に5日間実施する。ボランティア団体「きょうざん会」を中心にボランティア講師、高校生ボランティアが行う。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
学力テスト計算領域の結果	令和4年度と比較し全学年プラスになること	プラスになった学年 2年生、6年生	B	
(達成度)				
同じ児童の令和4年度と令和5年度の千葉県標準学力検査における算数科の計算領域となる「数と式」の正答率を比較したところ、2年生と6年生において、7校中5校で正答率の維持もしくは伸びが見られたが、全学年の向上には至らなかった。				
(課題・改善点)				
きょうざん塾は夏季休業中に2日間もしくは3日間の実施で、学習習慣の定着を身に付けさせることを目的として実施している。千葉県標準学力検査の計算領域の結果に加え、きょうざん塾実施後のアンケートによる児童の学習意識の変化も指標の一つとして取り入れる必要がある。また、令和5年度は、3年生、4年生、5年生で正答率に伸びが見られなかったことから、取り組む課題等についても見直す必要がある。				

6	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	④外国語教育の充実	所 管	学校教育課	
事業名	ALT(外国語指導助手)・JTE(外国語指導補助員)の配置	開始年度	昭和60年度	
事業内容	小・中学校にALTやJTEを配置し、英語のコミュニケーション能力の育成や国際理解教育の推進を図る。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
令和5年度実施 学力学習状況調査 中学校英語「話すこと」結果	全国平均との比較 －5ポイント以内	100%	A	
(達成度)				
「話すこと」の全国平均正答率が12.4%に対して、本市は8%となっており、全国平均に比べ4.4ポイントであった。目標の－5ポイント以内の範囲内だったので目標を達成する事ができた。				
(課題・改善点)				
令和6年度よりALTが1名増員され、各校における英語学習環境の向上が期待される。各校の英語担当者がALTと連携・協力し、更に充実した授業実践できるように働きかけていく。				

7	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	④外国語教育の充実	所 管	学校教育課	
事業名	「英会話の日」推進事業の実施	開始年度	平成19年度	
事業内容	小・中学校において英会話に親しむ活動を行い、外国人とのコミュニケーション活動や異文化に触れる活動を通して国際理解教育の推進を図る。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
英会話の日の実施回数	各学校が計画した回数を実施すること	92%	B	
(達成度)				
学校ごとに1回から3回と計画回数に差があったが、おおむね予定通り行うことができた。児童生徒がALTと対話をしたり異文化に触れる活動を通したりする中で、日々の授業で学んだことを活用する時間とすることができた。				
(課題・改善点)				
令和6年度はALTが1名増員されかつ英会話の日1日につき2名の増員がされ、最大3名での実施が可能となるので、より充実した活動ができるように各校へ実施計画書の作成・実践ができるように働きかけていく。				

8	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑤ふるさと学習の推進	所 管	学校教育課	
事業名	教育課程全体を通した「ふるさと学習」の推進		開始年度	平成21年度
事業内容	子どもたちがふるさとである富里を理解し、地域への誇りと愛情を育んでいくために、「ふるさと学習」を発達の段階に応じて教育課程に位置付け、推進する。中学年では副読本を活用して、富里市に関する学習の充実を図る。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
小学校3・4年生での ふるさと学習の実施時数	3年生：70時間 4年生：58時間	100%	A	
(達成度)				
学習指導要領では、小学校3・4年生において、自分たちの住んでいる身近な地域について学習することとなっている。各学校では、これらの地域の学習について目標のとおり適切な時間を年間指導計画に位置づけ、副読本「わたしたちの富里市」を活用して授業を展開した。				
(課題・改善点)				
本事業に関する取組をより広く伝えることが大切である。今後は、各校の様々な取組を紹介し合う場を設定するなど、情報共有を行えるようにしていく。				

9	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑤ふるさと学習の推進	所 管	学校教育課	
事業名	「ふるさと学習」に関する研修の実施	開始年度	平成21年度	
事業内容	富里の歴史についての理解を深め、今後の指導に生かしていけるよう、夏季休業中に「ふるさと巡検」を実施する。研修会では、専門性の高い生涯学習課職員を講師として、子どもたちへの指導に役立つ情報を提供し、指導者の育成を図る。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
教職員を対象としたふるさと巡検の実施	市内に初勤務となる教職員を中心に10名の参加	13名	A	
(達成度)				
夏季休業中に旧岩崎家別邸を中心に巡検を実施した。市内7校から13名の教職員が参加した。参加者のアンケートより、13名全員が「参加してよかった」と回答した。富里市の魅力や歴史を多くの教職員に知ってもらい、市内児童生徒への指導に還元することにつながった。				
(課題・改善点)				
富里市の歴史については、講師からの指導を受け、児童生徒に還元できる内容になっているが、富里市の魅力については、毎年検討し、市内教職員並びに児童生徒に富里市の魅力を伝えられるように内容の検討を継続して行っていく。				

10	目 標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑤ふるさと学習の推進	所 管	学校教育課	
事業名	地域教材の配付と活用	開始年度	平成14年度	
事業内容	小学校3・4年生の社会科学習で活用するための社会科副読本「わたしたちの富里市」を作成・配付する。この副読本を活用した授業を通して、地域への愛着の増進、故郷である富里の将来を担う人材の育成を目指す。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
小学校3・4年生の社会科授業での活用	7校	7校	A	
(達成度)				
各小学校に、社会科副読本「わたしたちの富里市」を配付している。活用状況については、小学校中学年において全ての小学校で活用されており、地域への愛着の増進を図った。				
(課題・改善点)				
地域社会の状況や学習指導要領の内容を鑑み、社会科副読本の改訂・印刷製本を円滑に進めていく必要がある。				

11	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑥特別支援教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	富里市特別支援教育専門員巡回支援事業（巡回相談）の実施	開始年度	平成19年度	
事業内容	特別支援教育の専門家チームによる巡回を市内全幼稚園・保育園・認定こども園（私立も含む）、市立小・中学校で年間2回（計画訪問）実施し、特別支援教育の推進を図る。要請による巡回（要請訪問）がある場合には実施し、園や学校だけでなく家庭における支援の仕方についても助言し、個別支援の充実を図る。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
訪問回数	42回	40回	B	
要請による訪問回数	5回	2回		
(達成度)				
計画訪問は、私立を含む市内幼稚園・保育園・こども園及び市立小・中学校で訪問を実施した。個別に支援を必要とする児童生徒への支援の仕方について助言をすることができた。 要請訪問については、少ない回数ではあったが、全ての要請に対応した。要請回数とニーズは必ずしも一致するものではないが、各学校の特別支援コーディネータとの連携を図り、対応することができている。				
(課題・改善点)				
現在、個別に支援を必要とする児童生徒への支援の仕方について助言をすることができている。 今後も家庭における支援の仕方も含め助言し、個別支援の充実を図るとともに、各学校の特別支援コーディネーターとの更なる連携強化に努めていく必要がある。				

12	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑥特別支援教育の推進		所 管	学校教育課
事業名	ライフサポートファイルの活用		開始年度	平成19年度
事業内容	特別な支援を要する児童・生徒の保護者にライフサポートファイルを配付し、各機関で受けた検査の結果や支援の状況を記録し、相談先や進学先で活用することにより、子どもの状態を的確に把握し、迅速かつ適切な支援を行う。			
指 標	令和5年度目標		令和5年度実績（実施率）	総合評価
小・中学校の特別支援 コーディネーター対象の研修回数	2 回		2 回	A
(達成度)				
幼小中の特別支援コーディネーター等を対象に、個別の指導計画、ライフサポートファイルの活用、また早期支援・指導の在り方等について、特別支援教育研修会の内容の充実を図ることができた。				
(課題・改善点)				
引き続き子どもの状態を的確に把握し、迅速かつ適切な支援を行っていく。				

13	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑥特別支援教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	個別指導補助員の配置	開始年度	平成18年度	
事業内容	特別支援学級に在籍する子どもや通常学級に在籍する特別な支援を要する子どもに対してきめ細かな指導をするために、全ての小・中学校に個別指導補助員を配置する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
配置人数	前年度（15人）より増員する	1人増員（16人）	A	
(達成度)				
全小・中学校に個別指導補助員を16人配置し、特別支援学級や通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒の一人ひとりの教育的ニーズを把握し、学習面、生活面でのきめ細やかな支援に努めた。				
(課題・改善点)				
児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、学習面、生活面において支援を行うためには、より多くの視点で子どもたちを見守る環境づくりが求められる。今後も学校の現状を踏まえ、支援体制の充実に努めていく。				

14	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑥特別支援教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	発達相談の実施	開始年度	平成18年度	
事業内容	学習上の困難さや生活上の課題を抱えた児童・生徒及び保護者、担任の悩みや心配を解消するために、月2回臨床発達心理士による相談業務を実施する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
相談の実施回数	96回	111回	A	
(達成度)				
令和5年度は、年間111回の相談があった。相談員は単に相談に乗るだけでなく、学校教育課の指導主事を通し、学校と連携を図りながら包括的な支援に当たることができた。				
(課題・改善点)				
相談員が包括的な支援に当たることができるように、また保護者や学校の相談に迅速に対応ができるよう、今後も臨床発達心理士、学校、家庭との連携を密にし、保護者、担任の悩みの解消に努めていく。				

15	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑦幼児教育の充実	所 管	学校教育課	
事業名	浩養幼稚園・浩養小学校を核とした幼小連携	開始年度	平成23年度	
事業内容	運動会やバザー、避難訓練、秋祭りなど様々な行事を通して幼稚園児と小学校児童の交流を図る。小1 プロblemの解消や有効な幼小連携の在り方について研究する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
幼小連携の行事数	5回以上	5回	A	
(達成度)				
合同運動会、防災訓練等共に行事を行う際には、幼稚園と小学校で密に連絡を取り合った。その結果、幼稚園と小学校で充実した交流が行われ、園児が小学生の活動や生活に興味を持つきっかけとなった。				
(課題・改善点)				
幼稚園と小学校で密に連絡を取り合うことで、幼稚園と小学校で充実した交流が行われ、園児が小学生の活動や生活に興味を持つきっかけとなることから、スタートアップカリキュラムを意識した無理のない小学校就学に期待が持てる。引き続き、円滑な幼小連携の実施を働きかけていく。				

16	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑧学校図書館の活用	所 管	学校教育課	
事業名	学校図書館司書の配置による読書活動の推進	開始年度	平成17年度	
事業内容	「富里市おすすめの本」を活用した読書活動を推進し、言語活動の充実を図るための基礎的な能力を養う。 学校図書館司書と各校の図書館担当教諭が連携し、図書室の環境整備を進める。 「図書利用アンケート」を実施し、その結果を授業に活用する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
一人あたりの貸出冊数	小学校60冊・中学校10冊	小学校54.5冊・中学校6.9冊	B	
図書利用アンケートの実施回数	2 回	2 回		
(達成度)				
目標冊数に対し、小学校は90.8%、中学校は69%と、小中で達成率に大きく差がある。 図書利用アンケート実施回数は目標値の2回を達成した。				
(課題・改善点)				
図書利用アンケートを活用し、授業等にも本の活用をしているが、貸出冊数の目標を達成していないことから、子どもたちや各学校の実態に合った本の購入をしていくことで、改善していく。				

17	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑨教職員の資質の向上	所 管	学校教育課	
事業名	幼稚園教員の指導力向上研修	開始年度	平成19年度	
事業内容	市内各幼稚園の様子を参観をし、活動内容や支援方法、家庭との連携等について助言を行う。 夏季の研修会において日々の実践につながる研修を行う。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
研修回数	1 回以上	1 回	A	
夏季研修会	1 回	1 回		
(達成度)				
夏季研修会において、個に寄り添った指導の充実についての研修会を開催し、こども園・幼稚園の情報交換を行った。また、富里市特別支援教育研修会にも参加を促し、研修会へ参加してもらうことで小学校への円滑な引き継ぎに努めた。				
(課題・改善点)				
今後も個に寄り添った指導の充実についての研修会を設定していく必要がある。また、こども園・幼稚園との連携を更に密にし、円滑な小学校就学に努めていきたい。 併せて、富里市特別支援教育研修会への参加も引き続き呼びかけていくことで、知識のみに偏らない実践力アップへとつなげていく。				

18	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑨教職員の資質の向上	所 管	学校教育課	
事業名	若年層の教員研修	開始年度	—	
事業内容	5 年目までの教諭・講師を対象に指導主事が授業観察及び指導を行い、授業力向上を図る。			
指 標	令和 5 年度目標	令和 5 年度実績（実施率）	総合評価	
指導回数	各担当の計画した指導回数を達成する（月 1 回を目安）	月 1 回	A	
(達成度)				
初任者から 5 年目の教員（講師を含む）について月 1 回程度授業参観を実施し、授業について指導主事によるフィードバックを行った。また、参観レポートを作成し学校長を通して本人に渡し、指導を振り返る資料とした。				
(課題・改善点)				
令和 5 年度から若年層研修として初任から 5 年目まで教員の授業を指導主事が参観しフィードバックする形式に変更して実施となり、参観レポートを通じて指導方法等について助言することができた。令和 6 年度も同様の形で実施し、指導力向上のきっかけとなるよう働きかけていく。				

19	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑨教職員の資質の向上	所 管	学校教育課	
事業名	教職員夏季研修会	開始年度	平成16年度	
事業内容	市立小・中学校の教職員が、4 講座のいずれかにおいて専門的な研修（希望制）を受けることで、実践的な指導力の向上を図る。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
開催講座数	4 講座	4 講座	A	
(達成度)				
予定していた4 講座すべてを夏季研修会として実施した。令和5年度はICT支援員を講師として招き、ICT活用の研修会を行うなど各講座で特色のある研修会を行うことができた。				
(課題・改善点)				
今後については、次の目標として各研究部会と連携し、より多くの部会で夏季研修会を通して教職員の指導力向上が図れるようにしていく。 令和6年度は体力向上研究部が新たに夏季研修会を予定している。				

20	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑩ICTを活用した学習の推進	所 管	学校教育課	
事業名	ICTに係る教員の指導力向上に向けた取組	開始年度	令和3年度	
事業内容	市内小・中学校教職員対象にICT利活用の研修会を実施することで、ICTを活用した授業力、児童生徒へのICT活用指導力の向上を図る。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
ICT利活用研修の実施回数	年2回	2回	A	
(達成度)				
授業で活用するSkyメニューの活用方法の研修会を実施したことで、ICTを活用した授業力の向上や児童生徒へのICT活用の指導方法の伝達を図ることができた。 また、夏期に実施した情報教育研修会については、ICT支援員を講師として研修内容を充実することができた。				
(課題・改善点)				
令和6年度も各校で活かせる情報等を研修会で扱うことができるよう、工夫して取り組んでいく。				

21	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑩ICTを活用した学習の推進	所 管	学校教育課	
事業名	I C T の活用に向けた取組	開始年度	令和5年度	
事業内容	各校においてICT支援員が週1回程度訪問し、児童生徒の授業におけるICT活用の環境整備や授業サポート等を行う。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
ICT支援員の各校への訪問回数	週1日	週1日	A	
(達成度)				
各学校に週1回程度ICT支援員が訪問し、児童生徒の授業におけるICT活用の環境整備や授業サポート等を行うことができた。				
(課題・改善点)				
各学校に週1回の訪問は確実に行うことができたが、大規模校の場合、クラス数が多いため支援員の訪問回数に差が出てしまう課題が見つかった。				
令和6年度は小規模校の午後の訪問時間を大規模校に充てるなどの対策を講じ、対応していく必要がある。				

22	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	①豊かな心の育成	所 管	学校教育課	
事業名	道徳教育の充実	開始年度	平成23年度	
事業内容	小・中学校において道徳教育推進教師を中心に、創意工夫した授業を展開する。 また、授業を地域に公開し、地域・家庭と連携し道徳教育の充実を図る。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
道徳の時間についての 指導法研修の実施	年間1回	小学校 5校実施 中学校 1校実施	B	
道徳の授業公開の回数	各校年間1回	各校年間1回		
(達成度)				
全小・中学校での実施には至らなかったが、各学校で道徳科の校内授業研究を行い、教員の指導力につなげることができた。また、授業参観等で、道徳科の授業を展開し、地域・家庭とともにある道徳科教育の充実に努めることができた。				
(課題・改善点)				
まずは、各校年間1回の実施を目指すことに併せ、各校で校内授業研究、自主研修等で道徳科の授業を行い、教員の指導力につなげていく。 また、道徳科の授業のみならず、道徳教育を要とし、地域・家庭とともに児童・生徒の心の育成を目指していく。				

23	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	①豊かな心の育成	所 管	学校教育課	
事業名	人権教育の推進	開始年度	平成25年度	
事業内容	市民課と連携を図り、人権擁護委員による「人権教室」を実施する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
各校3年に一度実施（輪番制）	各校3年に一度実施する	4校(富里中学校・富里小学校・第一小学校・浩養小学校)で実施	A	
(達成度)				
令和5年度は、小学校3校、中学校1校、計4校で教職員を対象に人権教室を実施し、個々を尊重する意識を育む良い機会となった。				
(課題・改善点)				
教職員の人権意識向上のため、校内研修の充実を図るため、今後も人権擁護委員による人権教室の実施を計画的に行えるように、調整を行っていく。各種研修会を通して、中心となる教職員に発信をし、教員の意識が変わるように働きかけていく。				

24	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	②健やかな体の育成	所 管	学校教育課	
事業名	体力向上に向けた取組	開始年度	平成25年度	
事業内容	体力調査を基に市内の児童・生徒の体力分析を行い、市体力向上研究部で協議し、より効果的な体力向上の取組を検討する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
県体力テストで県平均以上となる項目	6割	小学校：11%(96項目中11項目) 中学校：44%(48項目中21項目)	B	
(達成度)				
県体力テストで県平均を上回った項目については、目標の6割に達しなかったが、県平均と同等の結果の項目も含めると5割以上と、おおむね平均的体力値を維持している。 【県平均同等】 ・小学校：96項目中67項目（69％） ・中学校：48項目中25項目（52％）				
(課題・改善点)				
日々の体育科・保健体育科の充実させるため、体育主任会議で体力向上に係る内容を周知するとともに、継続して市学校教育研修会体力向上研究部との連携を図る。また令和6年度から小学校低学年に取り入れるスポーツ鬼ごっこの効果について、年度末に50m走の記録の変化を分析するとともに、引き続き体力を高める運動の充実を図る。				

25	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	③不登校やいじめ等への対応	所 管	学校教育課	
事業名	長欠者を減らすための関係機関の連携	開始年度	令和5年度	
事業内容	市内生徒指導・長欠担当者研修会において、関係機関の方を講師に招いて研修会を実施し、関係機関との連携方法の理解を深める。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
関係機関の方を講師に招いた研修会	年1回の実施	年1回実施	A	
(達成度)				
夏季休業中に訪問相談担当教員と市子育て支援課職員を講師に、具体的な事例検討を行った。長期欠席児童生徒の支援方法について、学校内でやりきることと外部の手を借りることのバランスがとれていない部分に気付くなど、理解を深める機会となった。また、訪問相談担当教員等、関係機関とのつながりをつくることができた。				
(課題・改善点)				
今後も、支援が必要な子どもたちに適宜適切な支援ができるよう、関係機関と長欠担当教員がつながる場となる研修会を継続していくとともに、それぞれの役割を整理していく。				

26	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	③不登校やいじめ等への対応	所 管	学校教育課	
事業名	長欠者を減らすための取組	開始年度	平成27年度	
事業内容	市内長欠・不登校児童生徒に関する市内10校の生徒指導・長欠担当者とのヒアリングを毎月実施する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
月1回ヒアリングを実施	月1回の実施	月1回実施	A	
(達成度)				
令和5年度は、毎月各校の担当者とのヒアリングを実施し、市内長欠・不登校児童生徒への対応について市教育委員会として助言を与えることができた。				
(課題・改善点)				
不登校児童生徒が、自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指せる校内体制を構築していく必要がある。多種多様な環境の子どもたちに対して対応ができるよう、ヒアリングの質を上げるため、情報の活用やアセスメントを確実にできるように努める。				

27	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	③不登校やいじめ等への対応	所 管	学校教育課	
事業名	ヤングケアラーへの対応	開始年度	令和5年度	
事業内容	校長会議、教頭会議、生徒指導担当者会議等の機会に、ヤングケアラーに対する理解の促進を目的とした研修会を実施する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
研修実施回数	年1回の実施	3回	A	
(達成度)				
4月の校長会議、教頭会議、8月の生徒指導会議において研修会を実施し、教職員へのヤングケアラーの理解が深まってきている。これにより、児童生徒の観察や家庭における状況把握、さらにはスクールカウンセラーや訪問相談員による教育相談体制も充実してきている。				
(課題・改善点)				
ヤングケアラーの子どもたちは自分たちが今ある現状を当たり前のこととしている傾向がある。自然と手伝っているという状況を変え、相談ができる大人がいる環境をより一層整えるため、今後も研修会を実施し、ヤングケアラーに対する理解促進に努める。				

28	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	③不登校やいじめ等への対応	所 管	学校教育課	
事業名	適応指導教室「ふれあいセンター」	開始年度	平成7年度	
事業内容	ふれあいセンター（適応指導教室）で不登校の児童・生徒の居場所づくりを行うとともに、学校復帰に向けての取組を行う。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
ふれあいセンターへの出席率	50%	22.8%	B	
月一度以上学校に登校できた児童生徒の状況	50%	42.8%		
(達成度)				
実施率は目標に届かなかったが、ふれあいセンターから学校復帰、または月1度以上登校できた児童生徒数が年度末にかけて増加し、改善傾向が見られた。				
(課題・改善点)				
長欠児童生徒への支援の方向性が変わり、「必ずしも学校に登校するだけを目指としない。」とする通知が国から出された。ふれあいセンターは、長欠児童生徒の居場所として、大きな役割を果たしている。今後も、学校とふれあいセンターの連携を強化し、長欠児童生徒の居場所づくりに努めていく。				

29	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	③不登校やいじめ等への対応	所 管	学校教育課	
事業名	いじめ問題の実態把握と取組	開始年度	平成24年度	
事業内容	いじめの実態調査を行うとともに、未然防止のための教育相談や教員の研修を実施する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
いじめの解消率	100%	72%	B	
いじめに関する研修の実施回数	3 回	3 回		
(達成 度)				
毎学期実施するいじめ状況調査において、いじめ認知の在り方が少しずつ浸透してきている。 また、いじめに関する研修を通して、市内教職員のいじめの定義への解釈の定着と、いじめ認知後の早期対応・早期発見による解消率に努めることを確認した。				
(課題・改善点)				
いじめについては学校体制で取り組み、市内全ての児童生徒が安全・安心に学校へ登校できるよう、いじめに対する職員の意識を高めていく必要がある。引き続き、学校からいじめ状況報告をしてもらうとともに、学校と連携しながらいじめの解消を図っていく。				

30	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	③不登校やいじめ等への対応	所 管	学校教育課	
事業名	教育相談の実施	開始年度	平成18年度	
事業内容	課題を抱える保護者や児童・生徒に早期に対応するため教育相談員を配置し、教育相談活動を行う。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
家庭訪問数	200件	436件	A	
相談件数	750件	831件		
(達成度)				
2名の教育相談員が週3日の勤務で家庭訪問や教育相談活動により、各学校のニーズに応じた形で実施した。				
(課題・改善点)				
教育相談のニーズが年々増加しており、内容也多岐にわたっている。今後は、教育相談員のみならず、各学校の教育相談体制を強化させていく。				

31	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	④情報モラル教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	情報モラル教育の推進	開始年度	平成21年度	
事業内容	教員向けの情報モラル教育・授業プログラムを提供し、子どもたちが携帯電話等を介したトラブルに巻き込まれないように、子どもたちやその保護者を対象とした「ケータイ・スマホ出前授業」を実施する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
情報モラル教育に関する授業実施校 （外部講師も含む）	市内全小学校（7校）	7校	A	
情報モラル教育・授業プログラム提供	市内全小・中学校（10校）	10校		
(達成度)				
「ケータイ・スマホ出前授業」を商工観光課、富里市消費生活センターと連携し、希望する市内小学校で実施し、「家庭でのルールづくり」、「スマートフォンの利便性と危険性」など要望に応じた内容で、ケータイ・スマホの安全で適切な使用法について児童や保護者に啓蒙を図った。また、情報モラル教育・授業プログラムでは、随時資料等を配付して、情報提供を行った。				
(課題・改善点)				
引き続き、情報モラル教育に関しては最新の情報を基に、出前授業等を実施し、子どもたちのルールや自分自身を守る意識の向上を図っていく。				

32	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑤安全教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	防犯・不審者情報の適宜・適切な配信	開始年度	平成19年度	
事業内容	不審者情報等を速やかに小・中学校、内容により、幼稚園・高校等へ配信する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
「マチコミ」システムの加入世帯数	100%	97%	A	
(達成度)				
年度初めに「マチコミ」システムの利用を各学校に呼びかけ、高い加入世帯率となり、児童生徒のみならず、保護者にも注意喚起をすることができた。				
(課題・改善点)				
引き続き、各学校へ「マチコミ」の活用方法を指導していくとともに、保護者への加入促進を行っていく。				

33	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑤安全教育の推進		所 管	学校教育課
事業名	防災及び交通安全教育の充実		開始年度	—
事業内容	地震や風水害等の災害に対する意識を高めるため、避難訓練等の防災教育の充実を図る。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
防災マニュアルの作成	市立幼稚園、小・中学校で作成	100%	A	
避難訓練の実施	市立幼稚園、小・中学校で1回以上実施	100%		
(達成度)				
すべての市立幼稚園、小・中学校で防災マニュアルを作成し、1回以上防災訓練を実施した。				
(課題・改善点)				
防災マニュアルについては、周辺環境や時代の変化に合わせて、毎年見直しをする必要がある。 また、避難訓練については、各学校の実態に即した計画・実施をしていく必要がある。				

34	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑤安全教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	学校における防犯教室の実施	開始年度	—	
事業内容	防犯意識を高めるため、市立幼稚園、小学校において、防犯技能を身につけるための防犯教室を開催する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
防犯教室の実施 （不審者対応避難訓練等も含む）	市立幼稚園、小・中学校で1回実施	100%	A	
(達成度)				
すべての市立幼稚園、小・中学校校で実施した。緊急時に備えた対応方法について学ぶことができた。				
(課題・改善点)				
例年10月以降に実施する学校が多いことから、年度初めの早い時期での防犯教室や防犯訓練の実施を各園・学校へ依頼していく。				

35	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑥ジョイント・スクール推進事業の取組	所 管	学校教育課	
事業名	ジョイント・スクール推進事業の充実	開始年度	平成26年度	
事業内容	既存の3つの中学校区をそれぞれ1つの学園として、現行の6・3制を基盤に、義務教育9年間を見通した教育を行う。また、各学園において、9年間の児童・生徒の学びと成長、発達を考慮し、地域の特色を生かした小・中連携、交流活動を積極的に推進する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
各学園の連携を図るため、推進会議を設ける。	年3回	年2回	B	
(達成度)				
3つの中学校区でスムーズに小学校の児童が中学校へ移行できるよう、小学校6年生と中学校1年生の交流を中心に行い、中1ギャップをなくすような取組を計画し実行した。				
(課題・改善点)				
義務教育9年間を見通した教育を行うに当たり、学校と地域との連携が必要不可欠である。引き続き、ジョイントスクール推進事業を通して、学校が楽しい・学園での取組事業が楽しいと思う児童生徒の育成の推進を図っていく。				

36	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑦次世代の子ども達の健康を推進するための対応	所 管	学校教育課	
事業名	小児生活習慣病予防のための取組	開始年度	令和4年度	
事業内容	小児生活習慣病予防のための研修会を講師を招いて実施し、教職員の意識啓発に努める。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
中学校2年生における 小児生活習慣病予備軍の数値	現在の7割から削減する	76.6%	B	
(達成度)				
目標値である7割を上回った。特に、貧血、脂質の項目で小児生活習慣病予備軍の割合が高くなっている。生活習慣病予防策として取り組んでいる給食の残食、残菜を減らす取組について、市内中学校のみならず、小学校も力を入れ実施した。				
(課題・改善点)				
令和6年度も、毎月の残菜率調査、保護者への啓発及び情報提供、生活習慣病予防の保健体育科の授業を通し、小児生活習慣病予防に努める。				

37	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑧安全に楽しく楽しむ食育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	安全な食材選びと衛生管理の徹底	開始年度	昭和48年度	
事業内容	学校給食に使用する食材について、納品時の検収の徹底に努め、食材や調理器具等の細菌検査を定期的を実施する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
検便細菌検査の実施回数	年24回（月2回）	24回	A	
食品細菌検査の実施回数	年2回	2回		
(達成度)				
学校給食衛生管理基準に基づき、給食従事者の衛生管理では、日常の健康管理とともに定期的な細菌検査等を実施し、その状態によっては代替職員等による対策を講じた。 食品に関しては、検収時の点検項目すべてを記録し、肉・魚・野菜類を分類して保管するなど相互汚染を防ぐとともに、調理器具等の細菌検査を実施し、品質や衛生管理の徹底を図った。				
(課題・改善点)				
検査の実施回数は、計画に沿って実施しており、衛生管理や食材納品時の検収については、安全安心な給食提供のため、引き続き細心の注意を払い、徹底して行っていく。				

38	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑧安全に楽しく楽しむ食育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	地場産物の活用の拡大	開始年度	昭和48年度	
事業内容	豊かな農産物に恵まれている富里市の利点を生かし、新鮮で生産者の顔の見える地場産品を給食へ積極的に活用する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
市内産の精米の使用割合	100%	100%	A	
市内産の生鮮野菜・精肉の使用割合	50%	44%		
(達成度)				
主食の一つである米飯については、全て富里産コシヒカリの一等米を使用しており、生鮮野菜や精肉も、調達可能な地元産を積極的に活用した。				
(課題・改善点)				
安全・安心と購入経費のバランスが適切になるよう配慮しながら、米以外の食材についても地場産品の一層の活用を図る。				

39	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑧安全に楽しく楽しむ食育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	食に関する指導の推進	開始年度	昭和48年度	
事業内容	児童・生徒を対象に朝ごはんの重要性、食事のマナー、好き嫌いをなくすことや生活習慣病予防などをテーマに、発達段階や学習内容を考慮して系統的な食育の授業を行うほか、食を通じて地域を理解することや食文化の継承など食に関する指導を行う。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
食育指導等の回数	年84回	79回	A	
給食だより等の配布	25回	27回		
(達成度)				
「富里市教育委員会食育推進プラン」に基づき食育を行っており、栄養士の授業は好評であり、食育授業後はクラスに留まり、給食に関する指導を行った。 また、既存の広報媒体（給食だより・献立表）を用いて、食に対する意識を高めることに努めた。				
(課題・改善点)				
栄養士が作成した食育DVDを使用する授業は行っているが、今後はタブレット端末の利用によるデジタル教材の活用など、より効率的な手法により、更なる食育の浸透を図る。				

40	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑧安全に楽しく楽しむ食育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	食体験を豊かにする献立の充実	開始年度	昭和48年度	
事業内容	給食献立に、行事食や伝統食、季節の食材を使用するメニューを積極的に取り入れることで、食文化の継承や、豊かな食体験の場としての給食時間を提供する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
行事食等の提供回数	年24回	25回	A	
(達成度)				
学校給食法では、我が国の各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めることが、目標の一つとなっている。 月ごとに定期に行事食・伝統食等を提供することで、食生活が食に係る人々の様々な活動の上に成り立つことの理解につながった。				
(課題・改善点)				
今後も行事食や伝統食、季節の食材を使用するメニュー継続していく。引き続き、食文化には、食材・調理・食べ方等が含まれており、地元の食と比較し、どのような違いや特徴があるかなど、食を通じて更に他地域の文化や歴史への興味や理解を持つことにつなげていく。				

41	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑨学校施設の整備	所 管	教育総務課	
事業名	学校施設の既存不適格事項への対応	開始年度	令和2年度	
事業内容	法令改正等により、既存不適格となっている小・中学校の防火シャッター危害防止機構及び小荷物専用昇降機防火区画の設置について、実施設計及び改修工事を実施する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
富里北中学校及び富里南中学校のシャッター危害防止機構既存不適格改修工事の実施	2校	2校	A	
富里北中学校及び富里南中学校の小荷物専用昇降機防火区画既存不適格改修工事の実施	2校	2校		
(達成度)				
富里北中学校及び富里南中学校の防火シャッター危害防止機構既存不適格改修工事は、令和5年8月に改修工事が完了した。				
また、小荷物専用昇降機防火区画既存不適格改修工事については、富里南中学校は令和6年1月に、富里北中学校は令和6年3月に、それぞれ完了した。				
(課題・改善点)				
当該改修工事の完了により、市内小・中学校の防火シャッター及び小荷物専用昇降機に係る既存不適格事項は対応済みとなった。				
令和6年度は、浩養小学校の昇降機に係る既存不適格事項について対応する。				

42	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑨学校施設の整備	所 管	教育総務課	
事業名	学校施設の修繕・工事及び安全点検の充実	開始年度	平成19年度	
事業内容	小・中学校施設の維持管理に係る修繕及び工事について、緊急性や優先度を考慮の上、迅速に対応する。 また、施設等の安全点検を行い、安全性を確認するとともに、危険箇所については修繕等を行う。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
小学校施設・設備の修繕・工事及び安全点検の実施	7校	修繕：43件、工事：4件	A	
中学校施設・設備の修繕・工事及び安全点検の実施	3校	修繕：32件、工事：6件		
(達成度)				
学校施設の修繕・工事については、不具合の現状や学校活動への影響等を確認し、緊急性や優先度を考慮の上対応した。				
学校施設の安全性の確認については、特定建築物定期調査における指摘事項を精査し、各学校からの報告・要望等を踏まえ施設の現状把握に努めた。また、各学校が実施する遊具の安全総合点検に同行し、点検項目について確認した。				
(課題・改善点)				
建築後40年を超える校舎が半数を占めることから、引き続き、予防・維持修繕に努める。				
今後も点検結果及び学校要望等による危険箇所の修繕・工事について、優先度を考慮した上で予算要求を行うとともに、危険箇所が発見された場合は、児童生徒の安全確保のため、早急に対応する。				
さらに、「富里市校舎等改修改築環境改善計画」について、関係課と協議をしながら見直しを検討していく。				

43	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(3) 地域に開かれた学校づくり			
	①学校開放や地域公開	所 管	学校教育課	
事業名	学校での地域公開授業の実施	開始年度	令和2年度	
事業内容	保護者や地域の方々に授業や学校行事を積極的に公開し、社会に開かれた教育課程を編成することで、学校だけでなく地域全体で子どもを育てていく。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
地域や保護者の方々に授業や学校行事を3回以上公開した学校数	10校	10校	A	
(達成度)				
運動会や体育祭、合唱コンクールや音楽発表会などの学校行事や各学期における授業参観を予定どおり行うことができた。				
(課題・改善点)				
各校に対し、学期に1回以上、地域や保護者に学校公開ができるよう促していく。併せて、各校のホームページやマチコミの機能を有効活用し、情報発信に努めてもらうよう促していく。				

44	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(3) 地域に開かれた学校づくり			
	①学校開放や地域公開	所 管	学校教育課	
事業名	学校支援ボランティア活用の推進	開始年度	平成20年度	
事業内容	学校の教育活動や環境整備について、保護者及び地域の人材がボランティアとして活動することを支援する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
保護者及び地域の 人材を活用した 活動回数	10校	10校	A	
(達成度)				
令和5年度はボランティアによる図書読み聞かせや環境整備の活動を行った。また、より効果的かつ継続的な活動になるよう、市公式ホームページにてボランティア募集の周知を図り、人材の確保に努めた。				
(課題・改善点)				
引き続き、効果的かつ継続的な活動ができるよう、人材の確保に努めていく。				

45	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(3) 地域に開かれた学校づくり			
	②コミュニティ・スクールの推進	所 管	学校教育課	
事業名	学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の推進	開始年度	令和4年度	
事業内容	教育委員会及び学校の校長の権限と責任の下、学校に在籍する児童、生徒の保護者等の地域住民の学校運営への参画、支援及び協力を促進することにより、学校運営の改善及び児童、生徒の健全育成に取り組む。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
学校運営協議会開催回数	各学校運営協議会において年3回	3回実施	A	
(達成度)				
各学校での会議開催回数について予定どおり開催することができ、学校運営協議会委員の意見や協力を得ることにより、各学校の教育活動に進展が見られた。これにより、学校と地域のパイプ役、地域情報の収集、地域団体との連携など、目に見えない形での支援や協力により地域ぐるみの教育を充実することができた。				
(課題・改善点)				
今後も、それぞれの地域の実情に応じ、各学校の学校運営への参画や改善点等を、運営協議会とともに検討していく。				

46	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(3) 地域に開かれた学校づくり			
	②コミュニティ・スクールの推進	所 管	学校教育課	
事業名	学校評価の実施と情報提供	開始年度	平成15年度	
事業内容	地域に開かれ、信頼される学校づくりを進めていくことを目的として、各幼稚園、小・中学校において学校評価を実施し、学校・園の改善に努める。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
自己評価の実施と公表	2園、10校	2園、10校	A	
学校関係者評価の実施と公表	2園、10校	2園、10校		
(達成度)				
すべての市立幼稚園、小・中学校が、自己評価、関係者評価を実施することができた。				
(課題・改善点)				
自己評価、関係者評価を実施し、成果と課題について把握、分析し、令和6年度に生かすことができるよう、引き続き助言していく。				

47	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(3) 地域に開かれた学校づくり			
	③地域一体のキャリア教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	中学生を対象とした「わくわくWorking！（富里市職場体験学習）」の充実	開始年度	平成18年度	
事業内容	中学2年生が市内及び近隣市町の事業所において職場体験学習を行い、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や職業観を育てる。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
中学校3校実施	中学校3校実施	未実施	B	
(達成度)				
令和5年度も新型コロナウイルス感染症等の影響で、受け入れ企業・施設が少ないため、未実施になったが、代替として社会人講話等に取り組んだ。				
(課題・改善点)				
令和6年度以降、職場体験に変わるキャリア教育の在り方について検討していく。				

48	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(3) 地域に開かれた学校づくり			
	③地域一体のキャリア教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	小学生を対象とした「ゆめ・仕事びったり体験（地域密着観察学習）」の実施	開始年度	平成21年度	
事業内容	現地での職場見学及び体験を希望する学校の小学6年生が「わくわくWorking!」の登録事業所を活用して職場見学及び体験を行い、社会的・職業的自立に向けて必要となる能力や職業観を育てる。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
小学校7校実施	小学校7校実施	未実施	B	
(達成度)				
令和5年度も新型コロナウイルス感染症等の影響で、受け入れ企業・施設が少ないため、未実施になったが、代替として社会人講話等に取り組んだ。				
(課題・改善点)				
令和6年度以降、職場体験に変わるキャリア教育の在り方について検討していく。				

49	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4) 生涯学習の推進			
	①いつまでも学べる環境整備	所 管	生涯学習課	
事業名	学びを通した人づくり	開始年度	平成18年度	
事業内容	学んだことを自らの力とし、地域のために発揮し、生涯にわたって輝き続ける人材の育成を目的に創年セミナーを開催する。 また、個人が習得した技術・知識を広く活用してもらえるようボランティア講師としての登録を促し、登録された講師を必要としている市民、団体へ紹介し、社会活動への参画を通じて、連携・協働のまちづくりの応援をする。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
創年セミナー開催回数	16回	16回	A	
創年セミナー受講生の満足度	80%	86%		
(達成度)				
創年セミナー16回の講座では、千葉県生誕150周年を記念した様々な事業を盛り込むなど、受講生の視野を広げ、知識を高めるとともに体験型、創作型の講座による技術の習得を支援することで、主体的に自らの学びに取り組むことができた。 また、創年セミナーで学んだことを生かし、地域において教え伝えることにつながり、受講生の満足度は、86%となった。				
(課題・改善点)				
創年セミナーの受講生が、習得した知識を活用し、地域コミュニティの高揚につながるよう、講座内容について実施時間やカリキュラムの幅を広げるなど更なる充実を図っていく。				

50	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4) 生涯学習の推進			
	①いつまでも学べる環境整備	所 管	生涯学習課	
事業名	「とみっこ大学」の実施と歴史・文化学習	開始年度	平成29年度	
事業内容	様々な創作活動、理科・科学実験、環境学習など子どもの学ぶ力、生きる力を育む体験学習を中心とした「とみっこ大学」を実施する。 また、小学5年生以上を対象に岩崎久彌氏や岩崎家にゆかりのある旧岩城邸庭園などの東京都内にある施設を訪れ、岩崎家が社会貢献を行ってきたことなどを学習する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
とみっこ大学参加児童の満足度	80%	92%	A	
ふるさと富里再発見参加児童の満足度	80%	100%		
(達成度)				
全12講座のうち荒天のためやむを得ず1講座が中止となったが、他は全て実施することができた。 参加者と保護者に講座に関するアンケートを実施し、満足度は参加者が92%、保護者は94%と高評価であった。 また、歴史文化学習に特化した「ふるさと富里再発見」では、岩崎久彌や久彌に関連することを学び、学んだことを新聞にまとめ発表を行った。参加者及び保護者へのアンケートでは、事業に対して100%の満足度であった。				
(課題・改善点)				
とみっこ大学事業の成否要素として魅力ある講座企画は必須である。令和6年度は、参加者や保護者から要望の高かった「馬」に関わる講座を企画していきたい。 併せて、異常気象や感染症防止対策等事業内容に応じた開催時期や緊急時対策の考慮に努める。				

51	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4) 生涯学習の推進			
	②学びの成果を活かす環境づくり		所 管	生涯学習課
事業名	学びを通したまちづくり		開始年度	平成18年度
事業内容	いつでも、どこでも、誰でもがともに学びあうまちづくりを目指し、知識、技能及び技術を有する者の能力を活用することにより、市民一人ひとりの生涯学習を支援し、豊かな地域社会をつくることを目的として、富里市生涯学習アシスト事業を実施する。			
指 標	令和5年度目標		令和5年度実績（実施率）	総合評価
アシスト事業登録講師の派遣回数	3 回		0 回	C
講義受講者の満足度	0 %		0 %	
(達成 度)				
アシスト事業登録者の地域人材を活用するため、放課後子ども教室での講師派遣の参考にできるよう、地域コーディネーター会議において事業の周知を行ったが、講師の派遣には至らなかった。 また、市広報紙でアシスト事業の講師登録等について、周知を行ったが、新規登録者につながらなかった。				
(課題・改善点)				
登録者及び団体等の高齢化率が目立ち、中高年層の人材確保が必要であることから、引き続き人材の育成及び確保に努める。 また、定期的に講師の派遣が行うことができるよう、関係機関との連携の円滑化を図る。				

52	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	（４）生涯学習の推進			
	③公民館事業の充実	所 管	生涯学習課	
事業名	サービスの適正化	開始年度	平成30年度	
事業内容	貸館中心であった公民館から、公民館主催事業を実施する。			
指 標	令和５年度目標	令和５年度実績（実施率）	総合評価	
事業実施回数	３回	２回	Ｂ	
参加者の満足度	８０％	１００％		
(達成度)				
市民活動団体の協力の下、11月に市内障害者福祉施設４施設合同で「ボッチャ大会」を実施し、計33名の参加があった。 また、３月には「絵手紙教室」を実施し、３施設から10名の参加があった。 このことにより、障害者の生涯学習の推進に向けた学びの場づくり、障害に関する理解促進の基盤づくりの推進及び共生社会の実現を目指す取組となった。				
(課題・改善点)				
引き続き、障害の有無にかかわらず、幅広い世代を対象に定期的に開催できる講座を企画し、住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に努める。				

53	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4) 生涯学習の推進			
	④図書館資料の整備	所 管	図書館	
事業名	図書館資料等の充実	開始年度	平成14年度	
事業内容	資料及び情報の収集・提供に当たっては、市民の学習活動を適切に支援するため要望に応えられるよう努めていくとともに図書館機能に生涯学習機能を付した上で、それぞれの機能が活かされるよう事業の実施に努める。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
入館者数	252,200人	193,545人	C	
貸出冊数	210,000冊	152,908冊		
(達成度)				
複合施設として、ギャラリー展示も含め各種事業に取り組んだ成果として、入館者数については、令和4年度比較では、約13,000人の増となったが、入館者数・貸出冊数とも目標値には至らなかった。				
(課題・改善点)				
日本大学藝術学部の学生による作品展や身近に本物の作品が見れる千葉県移動美術館など、好評を得た事業を行うことができたが、準備に時間を取れず、事前周知が不十分であったため、今後はスケジュールに配慮し取り組んでいく。				

54	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4) 生涯学習の推進			
	⑤図書館（とみらいテラス）事業の充実	所 管	図書館	
事業名	子ども向け事業の充実	開始年度	平成14年度	
事業内容	読書習慣は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付ける上で欠くことができないものであり、早期での読書習慣と図書館の利用習慣につながるよう事業を行う。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
ブックスタート事業達成割合 （参加者数/受診対象者数）	94%	95.4%	A	
ブックトリップ事業達成割合 （達成者数/全児童・生徒数）	30%	47.1%		
(達成度)				
「ブックスタート事業」については、4歳児健診対象者を対象に絵本の読み聞かせや絵本や子育て応援ブック等が入ったブックスタートパックをお渡し、参加率も良く、好評であった。				
「ブックトリップ事業」については、7月21日～11月12日の間に全小学生、中学生を対象に図書館作成のブックリスト「本はともだち」に掲載の本を読んで、読んだ本を報告するとスタンプがもらえる事業を実施した。その達成割合は、令和4年度実績に対し、令和5年度は全体で0.8%増加した。小学校においては2.5%増、中学校についても1.6%増となった。				
(課題・改善点)				
今後も、それぞれの事業を継続し、読書習慣や図書館の利用習慣につないでいく。				
なお、ブックトリップ事業については、小学生の参加数に比べると中学生の参加が少ないことから、参加しやすい方法を工夫する必要がある。				

55	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4) 生涯学習の推進			
	⑤図書館（とみらいテラス）事業の充実	所 管	図書館	
事業名	親子読書支援の充実	開始年度	令和4年度	
事業内容	親子が本と触れ合える場としての役割を強化する。親子が様々な本と触れ合う機会をサポートし本に親しみ、親子の読書活動と図書館利用を推進する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
児童書の貸出冊数	45,000冊	32,805冊	B	
支援数	1,480件	2,208件		
(達成度)				
親子読書支援コンシェルジュによる親子へのサポートは、順調に実施できた。今後も定期的に講座なども実施し、内容の充実を図っていく。 支援数は増加しているが、児童書の貸出冊数については目標に達しなかった。				
(課題・改善点)				
引き続き、より多くの親子に利用していただけるように事業の周知に努め、親子の読書支援を通じて貸出冊数や施設の利用促進につながるよう取り組んでいく。				

56	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4) 生涯学習の推進			
	⑤図書館（とみらいテラス）事業の充実	所 管	図書館	
事業名	学校図書室等への支援	開始年度	平成14年度	
事業内容	図書館が所蔵する団体貸出用資料を各小・中学校、幼稚園、こども園に配送し貸出を行う。身近に本とふれあえる機会の提供と読書活動を支援する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
貸出団体数	180件	91件	C	
貸出冊数	9,000冊	3,760冊		
(達成度)				
調べ学習利用等に加え、更なる利用促進を目的に、団体貸出用図書をテーマごとに分けたセットをつくり、「図書館資料活用便」を新設し、配送・貸出しを行なったが、結果、目標には達しなかった。 ○各小学校：年2回（よむよむ便） ○各中学校：年2回（中学校定期便） ○各幼稚園・こども園：年2回（らっこ便） ○希望があった学童クラブ：5回（学童便）				
(課題・改善点)				
増便をしたことにより利用の促進を見込んだが、受け入れ側の負担などの課題もあることから、今後は学校図書室等からの意見を伺いながら取り組んでいく。				

57	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4) 生涯学習の推進			
	⑥社会教育施設の整備	所 管	生涯学習課	
事業名	公民館施設の適正な維持管理	開始年度	平成24年度	
事業内容	空調設備をはじめ、老朽化した設備の修繕を計画的に行い、安定した公民館運営を図る。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
工事件数	3 件	4 件	A	
設備不備による休館日数	0 日	0 日		
(達成度)				
令和5年度は、公民館及び講堂の消防設備1件、音響設備1件、講堂系棟の調設備消防設備2件の修繕工事を実施した。 この他に、公民館棟の空調機設備の更新及び館内照明設備(調光付き以外全灯)をLED方式への更新をリースによりに実施した。				
(課題・改善点)				
老朽化に伴い、修繕を要する箇所が増加している。 なお、喫緊の優先事項としては、講堂系統の空調機の更新が必要である。 今後も公民館の利用者等が快適に使用できるよう施設の維持管理に努めていく。				

58	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4) 生涯学習の推進			
	⑥社会教育施設の整備	所 管	図書館	
事業名	図書館施設の適正な維持管理	開始年度	平成15年度	
事業内容	点検により不適格となっている空調機等の修繕及び更新工事を実施する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
修繕件数	3 件	11件	A	
工事件数	1 件	5 件		
(達成度)				
修繕については、当初予定していた箇所に加え、早急な対応が求められる案件があったことにより、全体で11件の修繕と5件の工事を実施した。予定外で対応した内訳としては修繕が8件、工事が4件であった。				
(課題・改善点)				
建築後21年を経過していることから、施設の長寿命化に対応するため予防・維持修繕が必要である。				
今後も点検結果等による施設・設備の修繕・工事については、優先度や緊急性を考慮した上で、予算措置を行うとともに、利用者に影響が出るような事案については、安心安全のため、早急に対応していく。				

59	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5) 文化・芸術の振興			
	①文化・芸術の創造	所 管	生涯学習課	
事業名	文化祭等の文化活動発表の場の充実	開始年度	昭和42年度	
事業内容	自立した活動を行う文化団体や個人に対し、活動成果発表の場として市文化祭等を開催する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
来場者数	延べ1,500人	延べ3,927人	A	
(達成度)				
11月3日～11月5日の3日間市内の一般及び団体による発表・展示・行事（大会・体験）の文化祭を開催した。（27団体） 11月～12月にかけて、とみらいテラスにて「児童生徒作品展」の展示を開催した。 作品展示数：小学生369点・中学生110点・富里幼稚園1点・浩養幼稚園2点・葉山こども園1点・向台こども園1点・日吉台幼稚園2点 ※幼稚園、こども園は園児の合同作品				
(課題・改善点)				
一般団体の参加が減少傾向にあることに加え、団体の高齢化が進み、参加自体が厳しい状態にある。また、児童生徒作品展の会場がとみらいテラスに移動したことで、公民館開催の文化祭への親子での来場者数が減少した。 今後は、若い世代の来場者が増えるよう子どもの参加できる内容について再考する必要がある。				

60	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5) 文化・芸術の振興			
	①文化・芸術の創造	所 管	生涯学習課	
事業名	芸術作品鑑賞機会の創出	開始年度	平成20年度	
事業内容	富里市内及び近隣市町に在住する芸術家の作品を展示し、これらの芸術家の存在を広く市民に伝えるとともに、質の高い芸術作品の鑑賞機会を創出する。 また、市立図書館の一部をギャラリーとして活用し、良質な芸術作品の鑑賞機会を身近に提供する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
来場者数	延べ8,000人	延べ9,794人	A	
(達成度)				
年1回から年4回の展示に増やすことで、市内外から多くの方に来場してもらうことができた。 個展を開催する機会として、展示する芸術家の方から開催場所が評価されている。				
(課題・改善点)				
来場者及び作家より好評の声をいただいていることから、年4回の芸術鑑賞事業開催を継続していく。				

61	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5) 文化・芸術の振興			
	②文化資源の保守	所 管	生涯学習課	
事業名	無形民俗文化財継承事業への支援	開始年度	昭和55年度	
事業内容	市指定文化財である「久能獅子舞」及び「中沢麦つき踊り」両保存会の継承活動事業に対し、経費の一部を補助して活動を支援する。 また、後継者の育成について保存会とともに検討する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
活動回数	久能獅子舞 : 年2回 中沢麦つき踊り : 年1回	久能獅子舞 : 年2回 中沢麦つき踊り : 年1回	A	
(達成度)				
両団体共に、富里市の無形民俗文化財を継承するため、練習等を行っており、予定どおり活動を行い継承活動の目的は達成できている。令和5年度は、久能獅子舞は4月と8月に、中沢麦つき踊りは10月に実施した。				
(課題・改善点)				
両団体共に、高齢化と担い手不足が課題となっている。久能獅子舞では運営の一部を地区出身の若手が担い、中沢麦つき踊り保存会では、とみちゃん秋まつりに出演する等、普及・周知活動等に努めており、課題に対して取り組んでいる様子がみられる。				

62	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5) 文化・芸術の振興			
	②文化資源の保守	所 管	生涯学習課	
事業名	文化財の保護	開始年度	—	
事業内容	富里市文化財保存活用地域計画に定めた文化資源の保存に関する措置を着実に実施し、歴史的価値の高い文化資源を後世に確実に伝える。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
地域計画中、保存に関する措置の開始件数	6 件	4 件	B	
(達成度)				
国指定・県指定に向け、候補となる「旧岩崎家末廣別邸」の文化財の修復を実施した。 また、調査が終了した4,490点分の護符（守札）について市指定文化財にするため、文化財審議会へ諮問し、指定に値するとの答申があった。今後、教育委員会定例会議で指定について諮る。				
(課題・改善点)				
地域計画で設定している保存に関する措置について、関係部署との調整が必要なものがあるため、長期的に継続した協議が必要である。				

63	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5) 文化・芸術の振興			
	②文化資源の保守		所 管	生涯学習課
事業名	埋蔵文化財の保護		開始年度	昭和49年度
事業内容	開発行為に伴って未発掘の可能性がある遺跡について、現状保存ができるように事業主と協議し、現状保存が困難な場合には発掘調査を実施して遺跡の記録保存に努める。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
文化財包蔵地確認件数	400件	506件	A	
(達成度)				
新たな遺跡の発見や周知遺跡の範囲見直しを随時行いながら、迅速な対応と精度の高い埋蔵文化財包蔵地確認を行った。				
(課題・改善点)				
GISシステム上の地図が最新のデータではないため、事業者側で持参した地図と照合できない事例がある。今後、継続的に更新の必要がある。				

64	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5) 文化・芸術の振興			
	②文化資源の保守	所 管	生涯学習課	
事業名	各種文化財の実態調査	開始年度	平成28年度	
事業内容	富里市文化財保存活用地域計画を作成し、文化庁の認定を受けたことから、この中で定めた指定文化財とするための詳細調査や総合把握のための調査を実施し、その成果を台帳化や地理情報システムへのデータ登載を図る。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
詳細調査及び総合的把握調査開始件数	2 件	2 件	A	
(達成度)				
地域計画策定時の目標である4件の文化財指定に向けて、令和5年度は2件の調査・研究を開始した。				
(課題・改善点)				
調査・研究から指定等まで複数年に渡る取組となり、更にシステムへのデータ反映まで着実に進めていくための進捗管理が必要である。				

65	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5) 文化・芸術の振興			
	③文化資源の活用	所 管	生涯学習課	
事業名	郷土資料の展示	開始年度	令和2年度	
事業内容	富里市郷土資料展示室の定期的な展示品の交換により、より多くの郷土資料に直接触れ合える機会を提供する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
展示入替え回数	8回	10回	A	
(達成度)				
掛軸を2か月ごと、刀剣を3か月ごと、古文書を6か月ごとに入替展示をするとともに、収蔵している文化財について紹介し、市内外に富里の歴史を伝えるよう努めた。 また、令和5年度より資料状態の調査を開始し、それにより、展示資料を変更する措置を2回行った。				
(課題・改善点)				
展示室・収蔵スペースの温湿度管理が行われていない、照明や展示ケースが元々展示用でないなど、郷土資料の展示・保管方法に課題がある。				

66	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5) 文化・芸術の振興			
	③文化資源の活用		所 管	生涯学習課
事業名	旧岩崎家末廣別邸の公開		開始年度	平成29年度
事業内容	国登録有形文化財である「旧岩崎家末廣別邸」を整備し、機能の維持及び活用を図る。			
指 標	令和5年度目標		令和5年度実績（実施率）	総合評価
主屋公開回数	2 回		4 回	A
(達成度)				
令和5年度は、10月に工事現場見学会を実施、その他客間にて11月には千葉県誕生150周年記念事業でトークショー、12月はお茶会、3月はクラシックのミニ演奏会を実施した。				
(課題・改善点)				
令和6年度は修復工事の最終年度となる。工事中ではあるが、可能な範囲での公開を行っていく。また、令和7年度からの一般公開に向け公開方法を検討する必要がある。				

67	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5) 文化・芸術の振興			
	③文化資源の活用	所 管	生涯学習課	
事業名	文化財を活用した学習支援	開始年度	—	
事業内容	旧岩崎家末廣別邸での学習や市内で出土した様々な埋蔵文化財、寄贈された民具、収集した写真資料を活用した郷土の歴史教育支援を行う。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
歴史教育支援回数	10回	13回	A	
(達成度)				
各種団体等から別邸のガイド依頼が定期的にあった。 また、小学生を対象とした市の事業「とみっこ大学」、「ふるさと再発見」と連携し市内児童に別邸を知ってもらうことができた。				
(課題・改善点)				
別邸見学では、毎年訪れる団体もあり、評価を得ている。 資料の貸出についてはコロナ禍で停滞した一方、最近では、学校側から依頼があった富里の歴史全般について講義については、好評の声を得ている。				

68	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6) スポーツの振興			
	①生涯スポーツ体制の整備	所 管	生涯学習課	
事業名	スポーツ推進委員の資質向上を目的とした研修会等への参加	開始年度	昭和53年度	
事業内容	スポーツ推進委員が研修会・講習会へ積極的に参加することにより、時代のニーズに即したニュースポーツの習得や適切な指導方法の研鑽を図る。また、市民からの要請に応じた指導やスポーツの普及に努める。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
研修参加回数	5 回	3 回	A	
ニュースポーツ体験の実施回数	4 回・20人	3 回・30人		
(達成度)				
新任委員がいなかったため、新任委員が対象となる研修の参加がなくなり、目標値を下回る結果となったが、各委員が知識や技能のスキルアップに努めた。また、市民を対象としたニュースポーツ体験（ポッチャやユニカールなど）を、年3回開催し、実施回数の目標値は下回ったものの、多くの方に参加してもらえたことにより、普及につながった。				
(課題・改善点)				
推進委員の高齢化も進んでいることから、若年層の新たな委員の確保が必要である。「ニュースポーツ体験会」の開催にあたっては、市民がスポーツをする機会を増やすため、積極的に広報・PR活動を行う必要がある。				

69	目標	4 市民の誰もが生涯にわたリスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6) スポーツの振興			
	①生涯スポーツ体制の整備	所 管	生涯学習課	
事業名	総合型地域スポーツクラブの設立支援と育成	開始年度	平成22年度	
事業内容	総合型地域スポーツクラブの運営支援を行う。また、地域コミュニティの場として、定期的・継続的にスポーツ活動ができるよう、身近な公共スポーツ施設を活動拠点として提供する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
富里南桜クラブの会員数	40人	45人	A	
富里南桜クラブの活動回数	40回	39回		
(達成度)				
毎週木曜日を活動日とし、60歳～80歳代女性を中心に片足立ちや踏み台昇降等の健康体操を実施した。				
令和5年度は、やむを得ない事情で中止にすることはあったが、おおむね予定通りに開催され、会員同士のコミュニティの場として提供することができた。				
(課題・改善点)				
今後、市公式ホームページや広報紙を通し、クラブの活動内容の紹介や会員募集等の支援を行っていく。				

70	目 標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6) スポーツの振興			
	①生涯スポーツ体制の整備	所 管	生涯学習課	
事業名	スポーツ・レクリエーション活動を中心とした生涯スポーツの普及	開始年度	昭和55年度	
事業内容	水泳教室のほか、年齢や体力に応じた軽スポーツの楽しさや魅力を体験できるように各種事業を開催し、いつでも、どこでも気軽にできるスポーツの普及に努める。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
水泳教室参加者数	延べ50人	53人	A	
(達成度)				
スポーツ推進委員・市スポーツ協会水泳専門部が中心となり、水泳を通して水に親しみながら、年齢や体力、技能に応じて健康維持や体力、競技力の向上を目的とした水泳教室を開催した。				
(課題・改善点)				
令和5年度においては、水泳教室のみの開催だったため、今後は時や場所を問わずスポーツの楽しさや体を動かすことの喜びを感じてもらえるようなスポーツの普及を検討していく。				

71	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6) スポーツの振興			
	②健康・体力づくりとスポーツ活動の促進	所 管	生涯学習課	
事業名	「とみさとスポーツ健康フェスタ」の充実	開始年度	昭和39年度	
事業内容	市民の誰もが気軽に参加でき、健康と体力づくりに対する理解と関心を深め、積極的にスポーツを実践するきっかけづくりの場として「とみさとスポーツ健康フェスタ」を実施する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
参加者数	延べ200人	107人	B	
(達成度)				
スポーツ推進委員が中心となり、様々なスポーツを市民の方に体験してもらい、健康とスポーツに関心を持つ機会を提供した。新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に移行されてから2度目の開催となったが、ボッチャ大会やソフトバレーボール大会など人気の種目で開催したことにより、令和4年度より多くの方に参加してもらうことができた。				
(課題・改善点)				
引き続き、市民の健康と体力づくりのきっかけとなるようなイベントを開催できるよう努める。				

72	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6) スポーツの振興			
	②健康・体力づくりとスポーツ活動の促進	所 管	生涯学習課	
事業名	大学との連携事業による体力の向上とスポーツライフの充実・発展	開始年度	令和4年度	
事業内容	国内外で活躍する、多くのトップアスリートを輩出する、また在籍する日本大学競技部所属学生によるスポーツ教室を開催し、市民がスポーツをすることの楽しさを感じ、またスポーツ活動を通し、市民、市の活力の向上健康の維持・増進を図る。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
教室の開催回数	2回	2回	A	
(達成度)				
日本大学スポーツ科学部准教授の辰田和佳子氏による学校教職員を対象とした生活習慣病予防のための食育研修を実施し食の大切さについて、生徒児童への知識浸透を図る機会を創出した。 また、11月には同学部教授の西川大輔氏による児童の体力向上を目的とした運動能力向上プログラムを実施し、市内小学校教職員を通じた児童への浸透を図った。				
(課題・改善点)				
引き続き、日本大学と連携を図り、市民がスポーツをすることの楽しさと、スポーツを通じ、市民の健康維持・増進につながるようなプログラムを実施することができるよう努めていく。				

73	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6) スポーツの振興			
	②健康・体力づくりとスポーツ活動の促進	所 管	生涯学習課	
事業名	スポーツ団体支援による活動の活性化	開始年度	平成20年度	
事業内容	市広報紙及びホームページ等を活用し、市スポーツ協会主催の大会や教室への市民参加を促進させる。また、全国大会等に出場する選手等への奨励費の交付や市内のスポーツ団体及び個人の優れた功績などを広く市民に紹介して、市民のスポーツに対する興味・関心を高め、競技人口の増加・技術の向上を図る。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
大会・教室の開催回数	50回	47回	A	
全国大会等への出場者数	8 件	8 件		
(達 成 度)				
例年に比べ、多くの選手へ奨励費を交付することができた。引く続き、市民のスポーツに対する興味・関心を高め、競技人口の増加・技術の向上を図る。				
(課題・改善点)				
市スポーツ協会競技専門部とは情報の共有を行いながら、各種大会、教室が開催できるよう努める。 また、市民が各種競技全国大会出場時においては、出場する選手へ奨励費を交付するとともに、優れた功績を広く市民に紹介し、市民のスポーツに対する興味・関心を高め、競技力の向上を図っていく。				

74	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6) スポーツの振興			
	③学校体育施設開放事業の促進	所 管	生涯学習課	
事業名	学校体育施設の効果的利用の促進	開始年度	昭和50年度	
事業内容	各種スポーツ団体からの利用申請を調整し、学校体育施設を含めた体育施設の効率的な利用を促進する。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
学校体育施設開放利用団体の登録数	延べ70団体	73団体	A	
学校体育施設の開放日数	300日	310日		
(達成度)				
体育施設の修繕や学校行事などにより一定期間利用を中止することはあったが問題なく利用することができた。				
(課題・改善点)				
学校教育活動を優先しながら、教育施設の有効活用を念頭に置き、地域における「身近な運動、スポーツ施設」として、さらに多くの利用団体が活用できるよう効率的、効果的な利用を促進する。				

75	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6) スポーツの振興			
	④スポーツ施設の整備	所 管	生涯学習課	
事業名	スポーツ施設予約システムの定着と施設利用の拡大	開始年度	令和4年度	
事業内容	富里社会体育館や市営運動場をはじめ、市内公共スポーツ施設の利用申請方法にオンラインによる方法を導入し、運用を開始する。各施設の利用予約、空き情報もリアルタイムで発信することで、施設利用者は、いつでもどこでも情報を取得し、サービスを享受することができる。システム導入に当たっては、誰もが操作しやすいと感じるシステムを構築し、利用の促進と周知を行う。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
オンライン申請件数	1,800件	3,470件	A	
(達成度)				
オンライン申請については、問題なく利用することができ、本システムの利用促進と周知を図った。				
(課題・改善点)				
オンラインシステムを定着させ、さらに本システム利用者数の増加を図りスポーツ施設の利用拡大に努める。				

76	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6) スポーツの振興			
	④スポーツ施設の整備	所 管	生涯学習課	
事業名	社会体育施設の整備充実	開始年度	平成31年度	
事業内容	社会体育施設を良好な状態で貸し出すことで、利用者の安全を確保する。また、施設の利用率を上げることで、明るく豊かな市民生活の向上を目指すことを目的として今後の改修計画を策定し、適切な取り組みを推進していく。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
施設・設備の修繕・工事	10件	9 件	A	
利用件数・人数	2,500件・66,000人	3,592件・63,395人		
(達成度)				
修繕・工事は予定通り施工されており、問題なく利用できた。				
(課題・改善点)				
安全・安心にスポーツができる環境を提供し続けるためにも、類似施設の改修例を参考とし、再整備、機能向上を図る整備計画の策定に努める。				

77	目標	5 健全な心と体を育む青少年健全育成の取組		
重点項目	(7) 青少年の健全育成の推進			
	①思いやりのある青少年の育成	所 管	生涯学習課	
事業名	青少年相談員活動の推進	開始年度	昭和38年度	
事業内容	体験活動を異学年と経験することを通じて、人間関係の形成や人を思いやる心を養うことを目的として、青少年相談員連絡協議会の主催事業を実施する。 また、それぞれの小学校区においても、学校、家庭、地域と連携して、キャンプやバザーなどの体験活動や防犯パトロールなどの青少年健全育成活動を行う。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
少年少女綱引き・ドッジボール大会参加者数	260人	中止	A	
ペットボトルアートイルミネーション点灯式来場者数	500人	3,400人		
(達成度)				
綱引き・ドッジボール大会は、申込チーム数が少なかったことから中止となった。また、ペットボトルアートイルミネーション点灯式については、小学校等に協力を依頼し、各所と連携しながら末廣農場及び北部コミュニティセンターで開催することができた。				
(課題・改善点)				
令和6年度は、綱引き・ドッジボール大会に代わる手軽に参加できるスポーツイベントを検討する。また、ペットボトルアートイルミネーション点灯式については、引き続き学校や地域等と連携しながら、来場者に楽しんでいただけるようイベント内容の充実を図る。				

78	目標	5 健全な心と体を育む青少年健全育成の取組		
重点項目	(7) 青少年の健全育成の推進			
	②家庭教育の場の提供	所 管	生涯学習課	
事業名	家庭教育の充実	開始年度	昭和39年度	
事業内容	子育てに関する学習機会と仲間づくりの場となる家庭教育学級を、各市立幼稚園及び小・中学校に開設する。併せて講演会や子育て学習会を開催し、子育てに関する学びの場を提供する。 また、子どもたちの生活リズムの維持と向上を図るため「早寝・早起き・朝ごはん」運動の周知を図る。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
家庭教育学級での学習会開催数	48回	48回	A	
講演会参加者の満足度	80%	98%		
(達成度)				
各家庭教育学級での学習会は目標開催数を達成できた。 参加者の満足度は学習会・講演会共に高く、学習方法や小中合同での開催、子どもと一緒に参加できる等開催に係る工夫が成果として現れたと思われる。 また、早寝・早起き・朝ごはん運動冊子を取り寄せ、幼・小・中保護者に配布し、啓発を図った。				
(課題・改善点)				
家庭教育学級学習会・講演会ともに体験的な活動やグループワークを取り入れたり、要望の多いテーマを取り入れたりと改善を図っているが参加者数の増加には至っていないことから、改善に向け検討していく。				

79	目標	5 健全な心と体を育む青少年健全育成の取組		
重点項目	(7) 青少年の健全育成の推進			
	③地域社会と家庭教育の連携	所 管	生涯学習課	
事業名	放課後子ども教室の推進	開始年度	平成20年度	
事業内容	少子化や核家族の進行、高度情報化などにより、子どもを取り巻く環境が変化している中で、子どもたちが放課後に、地域の大人や異学年との関わりの中で社会性や協調性などを身に付け、体験活動を通じて心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進していく。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
放課後子ども教室開催日数	70回/7校	37回	A	
参加児童の満足度	80%	98%		
(達成度)				
令和5年度から市内全小学校で事業を実施し、延べ1,295名の児童が参加した。 実施回数は52%に留まったが、参加児童数は想定を上回る人数であった。(想定：240人・参加：245人) また、アンケートの満足度では参加児童は90%以上、保護者は100%の高評価であった。				
(課題・改善点)				
今後は、児童や保護者、地域などの意向も踏まえ地域とのつながりを生かした体験活動の機会を創出や、児童の学習体制を十分に見守れることができるよう新たな人材確保も積極的に行う。				

80	目標	5 健全な心と体を育む青少年健全育成の取組		
重点項目	(7) 青少年の健全育成の推進			
	③地域社会と家庭教育の連携	所 管	生涯学習課	
事業名	「とみっこ宣言」周知・定着	開始年度	平成28年度	
事業内容	学校・家庭、地域がそれぞれの責任と役割を自覚し、富里市の未来を担う子どもたちの育成を図るための「とみっこ宣言」を広く周知し、定着させて、学校、家庭、地域がさらに連携して子育てに取り組めるように支援していく。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
家庭教育学級・講演会等での周知回数	26回	35回	A	
とみっこ宣言の書面配布、講話等周知手段	2方法	2方法		
(達成度)				
家庭教育学級説明会や各学級の開級式及び幼・小・中の子育て学習会でとみっこ宣言文を配布し趣旨等の説明を行った。家庭教育だよりの紙面にとみっこ宣言文を9回掲載し周知を図った。				
(課題・改善点)				
講演会や家庭教育学級等でのとみっこ宣言文周知は今後も継続して行う。保護者や講演会参加者以外の方への周知を図っていくことが課題である。				

81	目標	6 平和・人権意識の向上への取組		
重点項目	(8) 平和・人権意識の向上			
	①国際化社会に対応する子どもへの支援	所 管	生涯学習課	
事業名	英語体験活動の実施	開始年度	令和5年度	
事業内容	国際対話能力の涵養と、異文化に対する理解を深めることなどを目的として、「とみさとザ・ワールド・キッズ」や「英語ふれあいDay」を実施していたが、もっと参加しやすいものとするために、「放課後子ども教室」の学習・体験活動に取り込む。			
指 標	令和5年度目標	令和5年度実績（実施率）	総合評価	
「英語体験活動」実施小学校数	7校	6校	B	
「英語体験活動」の実施回数	14回	6回		
(達成度)				
令和5年度から放課後子ども教室のプログラムに英語体験を取り入れ、参加児童が英語に慣れ親しむことができるよう内容を工夫して各教室で実施した。 講師にALTを活用し、外国の文化についても学ぶ機会となった。				
(課題・改善点)				
実施回数を増やすことが出来なかったが、より多くの児童に英語体験活動を提供できるよう各校のプログラムを充実させていく。				

富里市教育委員会の教育行政について（評価）

笹井宏益（玉川大学）

1 全体をとおしての評価

これまで猛威をふるってきた新型コロナウイルス感染症は、令和5年当初ごろから小康状態になり、同年5月から「5類感染症」に位置づけられることとなった。こうしたコロナ禍からの回復を背景として、このたびの点検・評価の結果においては、教育委員会による事業や各学校などでの取組みが、着実に従前の状態に戻りつつあることが示されており、さらには、その一部においては、従前以上の成果を生み出しているものも見受けられる。こうしたことは、特筆すべきことであり、高く評価したい。

令和5年3月末時点における「とみさと教育プラン」に基づく諸活動の達成割合については、自己点検・評価結果の全体の傾向として、「順調に達成した（A評価）」、「概ね順調に達成した（B評価）」、「達成できなかったが一定の成果を得た（C評価）」の合計の割合（「達成できず成果が乏しかった（D評価）」を除いた肯定的な評価割合の合計）は100%に達しており、全81項目すべての項目で肯定的な成果を得たことが示されている。さらには、81項目のうち、C評価となった項目はたった3つであり、ほとんどの項目が「順調に達成した（A評価）」もしくは「概ね順調に達成した（B評価）」となっていることは、まさに関係者の努力の賜物であり、極めて望ましいことである。

富里市の教育行政の特徴として挙げられることは、従前から行われている取組みが着実に成果を蓄積してきており、併せて、一つの施策が他分野の施策と有機的に関連付けられて企画実施されていることである。上記の傾向は、一つの施策が他分野にも影響を及ぼし、そうした施策が多数あることで、様々な分野において相乗的に良い成果が生まれていることを示唆するものである。コロナ禍は、こうした取り組みのあり方に大きな影響を与えたものの、令和5年度は、そこから見事に回復していることが示されており、今後のさらなる発展につながるものとして大いに期待される。

個別の重点項目についてみると、学校関係者や教育委員会関係者による地道な努力の成果が着実に現れてきている。項目数が最も多い「学校教育の充実」に関して言えば、「順調に達成」が48項目中33項目という結果になっており、A評価が68.8%という極めて高い割合になっている（その他はすべてB評価で31.2%）。

その一方で、「生涯学習の推進」においては、10項目中3項目（30.0%）がC評価にとどまっていることは、残念な結果と言える。今後は、その改善に向けて一層の努力が求められよう。

全体的に見て、富里市教育委員会による教育行政は、令和5年度においても、極めて充実した活動を展開しており、高い評価に値するものである。

2 個別の事項についての評価

(1) 学校教育の充実

学力の向上については、千葉県標準学力検査の結果を踏まえ、市全体として、「『とみの国』検定」や「富里市きょうざん塾」を実施し、語彙力や計算能力などの向上のための取組みを進めたり、また、研究指定による指導方法の改善研究を行ったり、教務主任研修を実施するなどの取組みを進めたりしていることは評価できる。ただ、これらの取組みについては、目標値に比べて十分な成果が得られていない点が見受けられ、さらなる改善が期待される。

外国語教育の充実に向けて、A L T（外国語指導助手）やJ T E（外国語指導補助員）が授業を参観し助言等を与えたり、「英会話の日推進事業」を実施したりしていることは、好ましいことであり、生徒たちのあいだに、着実に英語に親しむ態度や異文化を理解する能力が育まれているものと考えられる。さらなる充実が期待される。

郷土を愛する心を養い地域に根ざした人材の育成については、教育課程全体をとおして「ふるさと学習」の推進や「ふるさと学習」に関する研修の実施、地域教材の配布と活用、といった取組みが定着しており、好ましい状況にある。引き続きそれらの充実を図ってほしい。

多岐にわたる特別支援教育の取組み（特別支援教育専門員巡回支援事業、ライフサポートファイルの活用、個別指導補助員の配置、発達相談の実施など）については、それぞれ目標値を達成しており、所定の成果を収めていることは、評価できる。

学校図書館司書の配置による読書活動の推進については、一人当たりの貸し出し冊数が、若干目標値を下回っており、図書の購入のあり方も含めもう一步の努力が望まれる。

教職員については、それぞれ関連する領域の研修を受講することで指導力の向上が図られており、また、ICT支援員についても、学校訪問により、児童生徒のICT活用能力の向上に力を発揮している。こうした取組みを継続することで、着実に「確かな学力」が育まれていくものと考えられる。

長欠者やヤングケアラーへの対応、教育相談の実施、いじめ問題の実態把握といった取組みについては、目標値が達成されており、評価できる。特に、教育相談の実施については、目標値を大幅に上回る実績となっており、今後さらなる充実を図ることが期待される。

情報モラル教育、安全教育、食育に関連する項目については、概ね目標を達成しており、評価できる。他方、ジョイント・スクール推進事業については、十分な進捗が見られていない。いわゆる小中連携は、各学校の伝統や個性もあり難しい面があるが、今ひとつ創意工夫が求められよう。

学校開放や地域公開、コミュニティ・スクールといった地域に開かれた学校づくりに係る項目については、いずれも目標値を達成しており、評価できる。

「わくわく working！」や「ゆめ・仕事びったり体験（地域密着観察学習）」といった中学生の職場体験学習を中核とする「地域と一体となったキャリア教育」については、生徒たちの体験学習の充実に大きな貢献をしてきたものの、令和5年度も、コロナ禍の影響により事業所での学習（体験）ができなかった。「学校と地域が一体となる」ことで、児童・生徒の成長・発達が期待されている現代において、こうした取組みは極めて重要であり、今後は、本来の体験学習事業として、充実することが期待される。

（２）生涯学習の推進

令和5年度においては、「創年セミナー」や「とみっこ大学」は、予定通り実施されており、受講生の満足度も高い。これらの事業は、「とみっこ大学」は、参加した児童生徒への教育的な効果も高いと考えられるので、今後の継続・発展を期待するものである。

学びの成果を活かす環境づくりのための事業として生涯学習アシスト事業が実施されているが、実績が極めて乏しい状況にある。その改善のためには、講師登録に係る広報を充実するとともに、関係機関との連携強化とコーディネート機能の充実が求められよう。今後の発展に期待したい。

図書館に係る事業のうち、子ども向け事業については、ブックスタート、ブックトリップ事業とも相応の成果を上げており、好ましい状況にある。しかしながら、図書館の入館者数・貸出冊数ともに目標値を下回っており、学校図書館への貸し出しも実

績が乏しいことから、さらなる努力が求められる。

メディアをつうじて世界中の情報があふれている現在、大人も子供も、読書を生活の中に定着させ、さらに読書をつうじて人と対話の機会を持つことが大切である。図書館に対するニーズが多様化する中で、キメの細かい、かつ総合的な図書館行政の推進を図ることが期待される。

（３）文化・スポーツの振興

文化・スポーツの振興策は、ほとんどの場合、文化事業やスポーツ教室といった「事業形式」で進められてきており、それゆえに、コロナ禍の影響をもろに受けてきた。しかしながら、令和５年度においては、文化芸術の創造、文化資源の保守、文化資源の活用、生涯スポーツ体制の整備、健康体力づくりとスポーツ活動の充実、学校体育施設開放事業の促進、スポーツ施設の整備、といった項目において適切な成果が得られており、高く評価したい。

特に、文化資源の活用のうち、旧岩崎家末廣別邸に係る資料活用による歴史支援教育については、目標値を上回る実績があったことは、極めて好ましいことである。